

平成18年度第1回尾張旭市交通問題懇話会

1 開催日時

平成18年4月21日（金）

開会 午前9時30分

閉会 正午

2 開催場所

尾張旭市役所 南庁舎2階 201会議室

3 出席者名

会長：加藤哲男 副会長：黒田鉦司

構成員：荻原善夫、奥野昌明、加藤桃代、苅谷勝、櫻井栄二、寺尾信雄、
寺田千珠子、戸松秀男、服部正勝、林喜一、日比野正夫、
渡辺鎮夫

顧問：伊豆原浩二

市長：谷口幸治

事務局：大橋邦弘、秋田誠、長江均、若杉博之、大和弘明

4 議題等

- (1) ルートの見直し案について
- (2) 協賛の募集について
- (3) 利用料金、回数券等について
- (4) その他

5 会議の要旨

市長あいさつ

現在試験運行を行っている尾張旭市公共交通は、現在、市民にとって必要なシステムとなっており、19年度中には本格運行に移行したいと思っています。

地域に1本もないから運行して欲しいという声がある一方、1時間に1本運行して欲しいという声もある。限られた財源の中でどうしたらよいのかいろいろ悩んでいます。

本市としては健康都市宣言を行い、3つの柱のうちのひとつである「外にでかけたくなるまち」を目指すにあたり、この試験運行は非常に重要な仕組みである。そのため、今後はこの仕組みをより多くの市民に、もっと広い地域に拡大していきたいと考えています。

本格運行に向けて、引き続き構成員の皆様からはいろいろな意見を頂戴したいと思っていますので、よろしくお願いします。

(1) ルートの見直し案について

(事務局)

今回2つの提案をさせていただいた。一つは現在の運行形態にもう1路線追加して4路線にしたもので、運行時間は45分である。もう一つは4ルートにして運行時間を30分にしたものである。前回の懇話会で5ルート案の概念図を提示したが、現在の財政状況では費用面も限られているため、いろいろと検討を行ったが5ルート案は非常に難しい。この2案で考えていきたい。

45分案は現行の東ルートから狩宿方面を切り離し、サンステージ三郷を経由してイトーヨーカドーまで運行。西ルートは旭前駅を経由して、印場駅まで運行。南東ルートは狩宿町を通して愛知医大を経由し、市役所まで運行。南西ルートは印場駅から庄南町、緑町を通して旭前駅を経由し、市役所まで運行するという案。この案であれば交通空白地が解消できる。

30分案は全てのルートを30分で運行するために現行の45分ルートと比べるといろいろな地域を経由しなくなり、地域に大変厳しい案である。運行時間の関係で運行できる地域が限られ、利用できない人が増えてしまう。それを補うために三好方式も考えたが、三好町へ行って試乗したり、話を聞いてきたが、手間がかかるため乗りにくいし、尾張旭市で行う場合は費用もかなりかかってしまう。

事務局としては、当初より交通空白地解消を目的としてきたので、まずは基本のルートを45分で固め、将来的に車両を増やすなどの対応をしていけば運行頻度も確保できるのではないかと考えている。

14年度と16年度のまちづくりアンケートの中で公共交通の満足度を聞いているが、この中のバスの設問で14年度、38%に対し、試験運行を開始した16年度は53%と満足度が上がっている。校區別に見ると、瑞鳳、渋川、本地原では不満の声が大きくなっている。

(構成員)

個人的には60分での双方向循環の案がいいと思っていた。提案してもらった30分案をつないでしまえば60分ループになる。さらに5ルート案を近い将来考えているのかを教えてほしい。

(事務局)

60分ループは1度渋滞などで狂いだと、1日もしくは全市的に混乱するし、遅れがちになってしまう可能性がある。それよりも短いルートに分けた方がリスクは少ないと思う。将来の話については一個人として発言するが、発展性というのは限りのないことであり、費用やエネルギーを投下していけば良い

ものになるのは当然である。しかし、現在はそういう状況ではない。そんな状況の中で今後、車両の購入も考えていくし、最近では日野のポンチョといったバスの研究もしている。この車両は1台1,500万円から1,700万円になるものと思われるが、市の事業全体としてお金の配分を考えると、一気に4台買っていこうとすると大変なお金がかかる。ルートを変更して利用客が伸びれば次は大きな車両を買っていこうということになる。

(構成員)

交通空白地の解消、運行頻度の向上の両方を達成するのは難しいと分かったが、現行のルートを3つのループを作って双方向で計6台使えばよいのではないかと考えているが、そのような検討はあったのか。

(事務局)

様々な案を作成し、いろいろな時間帯で実走してみた。スーパーや駅等、経由地を考慮して案を考えた。ループ案も良いと思うが6台の車両を使うというのは経費がかかる。巡回の素晴らしさがあればお教えいただきたい。

(構成員)

いろいろ検討してループ案についてこれは駄目だということはどういう点か。

(事務局)

時計回りのルートでは右折の多いルートができてしまい、効率的にどうか。また、広い道ばかりでもなく、電車の踏切等を考えると順調に走行しないケースもあり、遅れだすと他ルートに影響がある。こういったことからループでなくてもよいのではないか。シャトル方式で良いのではないかということである。確かにループにすれば乗り換えが不要になって乗りやすくなると思う。

(構成員)

45分ルート案の南側の2つのルートは45分で運行できるのか。見た目では疑問もあるが。

(事務局)

西のルートは40分ぐらいで、残りの3つは41分から42分で運行できた。

(構成員)

45分ルート案で旭平和墓園の近くまで従来よりも行くということか。アメ

ニティには遠くなるのか。

(事務局)

アメニティの前を通って墓園の方に行く。

(構成員)

お墓により近いところにのりばを設置してほしいという意見が多いのでありがたい。東ルートについては非常にいいルートになったと思う。

(事務局)

5月に皆さんと一緒に試走も考えている。

(構成員)

懇話会の空気が45分ルート案に傾きかけているが、西ルートでは運行頻度の改善をしてほしいという声が多かったので、折衷案として、午前中に45分運行の中へ一部30分運行を加えることはできないであろうか。ちょっとでも改善されたという感じを与えたい。

(構成員)

今は45分と30分のための提案だが、40分とかいう案でもよいのではないか。

(会長)

運行頻度の改善はできない分、空白地はなくなるということだが、行政目標としてはいいが、客があまり乗っていないところも運行するので、いつも乗っている人にとってはつらいと思う。でも構成員の皆さんは運行頻度の改善という考えがあると思うので、事務局はその辺りのケアも今後お願いしたい。ところで45分にこだわっているのではないかという意見についてはどうか。

(事務局)

40分でということであれば今の45分ルートのどこかを切っていかなければならない。こだわりをなしにすれば何でもできるということである。

(顧問)

懇話会で目指したものは何だったか。どこをクリアしていこうかといった順番を作ってやっていかないといけない。交通空白地にしても今回は500mでやっているが、これは半径500m以内であれば皆、同じ条件である。つまり、

のりばから50mの人も500mの人も同じということである。まずは交通空白地を100%なしにするのであれば、次はどうするのかということが大事である。45分だ30分だという議論を続けていると堂々巡りになってしまう。一つ一つ目標をクリアしていくようにしなければならない。今のままでは趣旨がはっきりしておらず、議論の焦点があいまいである。

(会長)

事務局としては45分案と30分案の提案をし、それを参考に8月から運行していきたいということか。

(事務局)

冒頭説明したまちづくりアンケートの結果は全戸配布しているので、ご覧なされた方もみえると思うが、それとは別に運行していない地域からもかなり意見をもらっているし、運行しているところの人たちからも意見をもらっている。利用している人たちはもっと便利に、利用できない人たちは自分たちのところも運行してほしいという声がある。市としてはまず交通空白地を埋めて、本当に便利だねという声になれば台数を増やして頻度を向上していけばよい。逆に頻度だけを上げると、ずっと利用できない人が残り、その声はまた出てくる。乗っている人が便利にというよりも、乗りたくても乗れない人たちの地域を新たに運行し、そういった人たちにも乗ってもらいたい。

(会長)

交通空白地を減らしたいというのはわかるが、これが永遠のルートではないと思っている。市民の意見を的確に検証し、引き続き改善をお願いしたい。

(構成員)

交通空白地を隈なく通ることによって利用者が本当に増えるかという疑問はある。タクシーチケットについて、どこでどう使われているかというの調べなければならないと思う。

(顧問)

タクシーチケットのチェックをしておくことは大事である。

(構成員)

タクシーチケットに書かれた乗り降りのデータを集計すればよいのではないか。

(会長)

やってみるとすごく手間がかかるし、どこの人が乗ったのかがわからない。

(構成員)

４５分、３０分の時間はあまりこだわらなくてもよい。利用する人は１５分や２０分なら何とも思わないのではないか。

(会長)

愛知医大へ行くのには時間は現行より短縮されており、その辺の改善効果はあるかと思う。

(構成員)

実際に何分乗っているかということだね。

(構成員)

渋川福祉センターがなくなってしまうのは残念。交通空白地を減らすより本数を増やすという意見が多かったのではないかと感じている。

(構成員)

用事が１時間半ぐらいかかるので、そんなに頻度に固執する必要はないと思う。若い人は皆、車で行く。お年寄りには時間はあまり気にしない。

(構成員)

車に乗れなくなったときの交通手段と考えているが、駅やスーパーなどを利用する場合は４５分ルートの方が良いかと思う。時間については急ぐ人もあるかと思うが、そう気にする人はいないと思う。

(構成員)

４５分ルート案は北原山地区、三郷等を通して非常に便利になるなという感じがある。

(構成員)

利用料金について１回１００円だが、ガソリンも高くなっているが１００円で維持できるのか心配である。

(構成員)

目標の２つ（交通空白地の解消、運行頻度の改善）とも一度に達成するのは

難しいが、少しでも改善できればよいのかなと思う。

(構成員)

北部のルートはあまり変わらないが、住民にしてみると今までのルートは県営住宅からダイレクトに旭労災病院に行っていたのが、旭前駅に行ってから病院となるので、住民にどのように説明するのも考えなければならない。自分のことだけでなく、全体の事を考えてもらうように説明をしていかなければならないと思う。

(構成員)

利用料金について、100円から200円にという考えもアンケート結果にあったので、利用料金の議論のときには是非お願いしたい。ルートについては現行のルートよりかなり良くなったと思う。

(構成員)

懇話会では45分ルート案でいきたいというのが分かった。頻度の問題も別の形で解消するなど、近い将来に改善されるようお願いしたい。

(構成員)

追加タクシーの問題は解消されない。車両の購入については15人乗りくらいの安い車両もあるが、その辺はどう考えるか。

(事務局)

高齢者の利用が多いので、低床であるとかを考えなければ1,000万円程度で購入できると思うが、バリアフリーなどの観点からは難しい。そういう人たちに対応した車両で考えていきたい。しかし、試験運行期間中はそのような車両は購入できない。

(会長)

顧問から試験運行期間中はレンタルでどうかという提案があるが。

(顧問)

車両については何を目的にするのか。ステップありの車両は元気な方、不自由な方は別なサービスといった方法もある。ここではどういうものにしていった方がよいのかをこれから議論していただければよいのでは。

(構成員)

将来的には考えると思うが、追加タクシーが全く改善されないから1台でも2台でも導入していけばいいのではという提案である。

(構成員)

住民全ての意見を網羅するのは到底無理である。何もないところからここまでできた。今まで送り迎えが家族に100%依存だったのが50%に軽減されるかもしれない。住民も自分でできることは努力していかなければならないし、全て行政に頼らなくてもよい。この案でも充分だと思う。

(構成員)

時間短縮の声も多いので、住民の声をしっかり聞いて、今後に向けて改善していってほしい。

(2) 協賛の募集について

(事務局)

運行事業を拡大するには費用が嵩むため、利用料金の値上げ以外の方法として、協賛という方法もあるかと思う。

他の自治体での実施例を参考に、本市でもやってみてはどうかということで、まずは車両を活用した協賛をやっていきたい。

募集案内の内容を確かにした上で、構成員の皆様には地域の事業者、個人のかたにお願いをしていただければという思いでいる。

(構成員)

県外ばかりの実施例だが近隣はないのか。

(事務局)

なかなか県内での実施例は少ないのが現状である。

(顧問)

お金の収入の処理が難しかったので、今まではなかなか事例が少なかった。でも、これからは法律も変わってやりやすくなる。

(構成員)

停留所の広告はやらないのか。

(顧問)

事業者の所有物として考えていろいろやっているところはあるが、今回は市専有の車両でやっていくという事である。

(構成員)

掲示場所が7か所あるが、名鉄バスみたいに全部ラッピングする方法もある。部分的にやるよりいいような気がするが。

(事務局)

幅広い方々にみんなで支えていただくという趣旨から、いろいろな事業者から協賛をお願いしたいと考えている。

(構成員)

将来的に車両が大きくなればラッピングを考えてもいいと思う。

(事務局)

車両デザインを考えるとすると、全部ラッピングするとそのデザインが損なわれてしまうのではないか。

(顧問)

各自治体によってデザインは様々であるので、尾張旭市は独自にあったデザインを行えばよい。

(構成員)

みんなで支えていくという、まさに協賛という考えですね。

(構成員)

広告収入はどうなっているかという情報開示の点はどうするか。

(会長)

協賛者を広報でお知らせするという方法もある。

(構成員)

車両よりものりばでやった方が掲示場所が多く、収益があるのではないか。

(会長)

今後いろいろな協賛方法を考えて、のりばや時刻表などにも発展させていく

ということですね。

(3) 利用料金、回数券等について

(事務局)

1日券や乗り継ぎ券、回数券なども利便性を高める上で良い方法だが、それについて皆さんの意見をお伺いしたい。

(構成員)

市が提案したものについて議論した方がよいのではないかな。

(事務局)

主に回数券、1日券、乗り継ぎ券、定期券などについての皆様の思いをまずは聞きたい。1日券を300円にしてとか、具体的なことについて意見を聴取し、市としての具体案を作成したい。

(会長)

一昨年の第5回交通問題懇話会でも料金について議論したが、回数券等についてダメだという人はいないはず。問題になるのは無料対象者をどうするかというぐらいかな。

(構成員)

身障者も付添い人も50円ずつではどうか。100円では健常者と一緒である。無料とまではいかなくても半額にしたらどうか。

(構成員)

回数券、1日券、家族券ぐらいを考えて、あとは料金を決めればよいのではないかな。

(構成員)

回数券を買ったはいいけど、どこかにしまっちゃったということもある。

(構成員)

今は100円を入れると音がするので分かるが、回数券だと音がしない。車両の問題であるが、運転手の横に料金箱がある車両の方がやりやすい。

(事務局)

試験運行期間中に1度やってみたい。

(構成員)

100円の料金体系で回数券を作ったりするのが本当にいいのか。200円ならそういうこともわからないではないが、100円でなおかつサービスを上げるのはいかがなものか。

(顧問)

実際にやっている自治体でどれくらい回数券などが使われているのかを調べないといけない。安城でも家族券の議論があった。1枚持っているとなりのみ家族ならもう1人乗れるのだが、誰がその人を家族と認定するのかという議論があった。でも、目的は利用促進を図るものであるから、実際には誰が家族でもよい。

(構成員)

広報に載っている財政状況の資料はわかりにくい。どれくらい市が困っているのかどうか。余裕があるのなら住民が喜ぶことをどんどんやっていけばよいのだが。事務局で案を出してもらった方がいい。事務局としては民間の事業者並みの運賃に上げたいのか。料金を上げればいろいろな券を発行してサービスを提供すればよいが、100円のときに必要があるかが疑問である。

(構成員)

乗り放題300円なら、乗り継ぎ券を50円にしたらどうか。片道しか利用しない場合もある。

(顧問)

車両がバス型であれば1日券のチェックもできるが、今の車両の形態では工夫が必要である。

(会長)

日付部分をコインで削るような形のものもある。券のやり取りを車内で行うと運行に支障が出る恐れもある。

(構成員)

車両がバスに変わる時期と一緒に回数券などが発行されるなら分かるが、今の車両であれば現行のままにしておかないとちぐはぐになるのではないか。

(構成員)

健康都市の説明があり、利用される方はお年寄りが多いと思うが、医療費負担が増えたりしているのを見ていると、１コイン１００円というのは守っていただきたいと思う。

(構成員)

ダイヤ改正はいい時期なので、PRをしていったらいいと思う。ただし、お金のかからない方法でよい。

(構成員)

４月２９日の健康フェスタは臨時運行するのか。

(事務局)

臨時運行を実施し、保健福祉センターの中でパネル展示を行う。

(構成員)

日曜、祝日の運行の議論はあるのかないのか。

(事務局)

費用面で難しいため、今年度の懇話会では考えていない。

(構成員)

郡上八幡が走らせているポンチョが走れば、子供たちが喜んで夏休みなどに乗るのではないか。

(顧問)

モデルチェンジをしてしまい、今のポンチョはデザインが変わってしまった。

(構成員)

見直しは８月からになるのか。具体的なことは次回の懇話会か。

(事務局)

８月からの予定だが、警察協議等があるので最終的なものは懇話会では難しいかもしれない。

(構成員)

積み残しの課題はどう対処するのか。車両の大型化は１ルートのみか。

(事務局)

現行のスタイルでもう 1 ルート増やして、秋口にかけてどこかのルートにバス車両を導入して試行したい。

(4) その他

(事務局)

次回の開催は 5 月 2 6 日 (金) 午前 9 時 3 0 分から講堂 1 で行います。

一度構成員のみなさんと一緒に今回提案させていただいたルートを試走したいと思っております。つきましては後日通知を差し上げますので、希望される方はぜひご参加いただきたいと思います。